

## JARL 沖縄県支部 第2回非常通信訓練 実施報告書

### 1. 実施目的

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くのアマチュア局が地方自治体に被害情報の収集や安否情報の伝達など、人命救助や災害救援のための「非常通信」を実施されました。JARL 沖縄県支部は、沖縄県内で大地震が発生したことを想定する独自の「非常通信訓練」を以下の日時で行い、県内アマチュア局からの寄せられた情報伝達の流れを確認した。

### 2. 実施した日

令和6年8月25日（日） 開始 10:00 終了 12:00

### 3. 通信ルートおよび訓練の手順

[【別紙1】 JARL 沖縄県支部 第2回非常通信訓練 通信ルートを参照](#)

#### <想定>

**\* 令和6年8月25日（日）午前9時30分頃 与那国島の近海で**

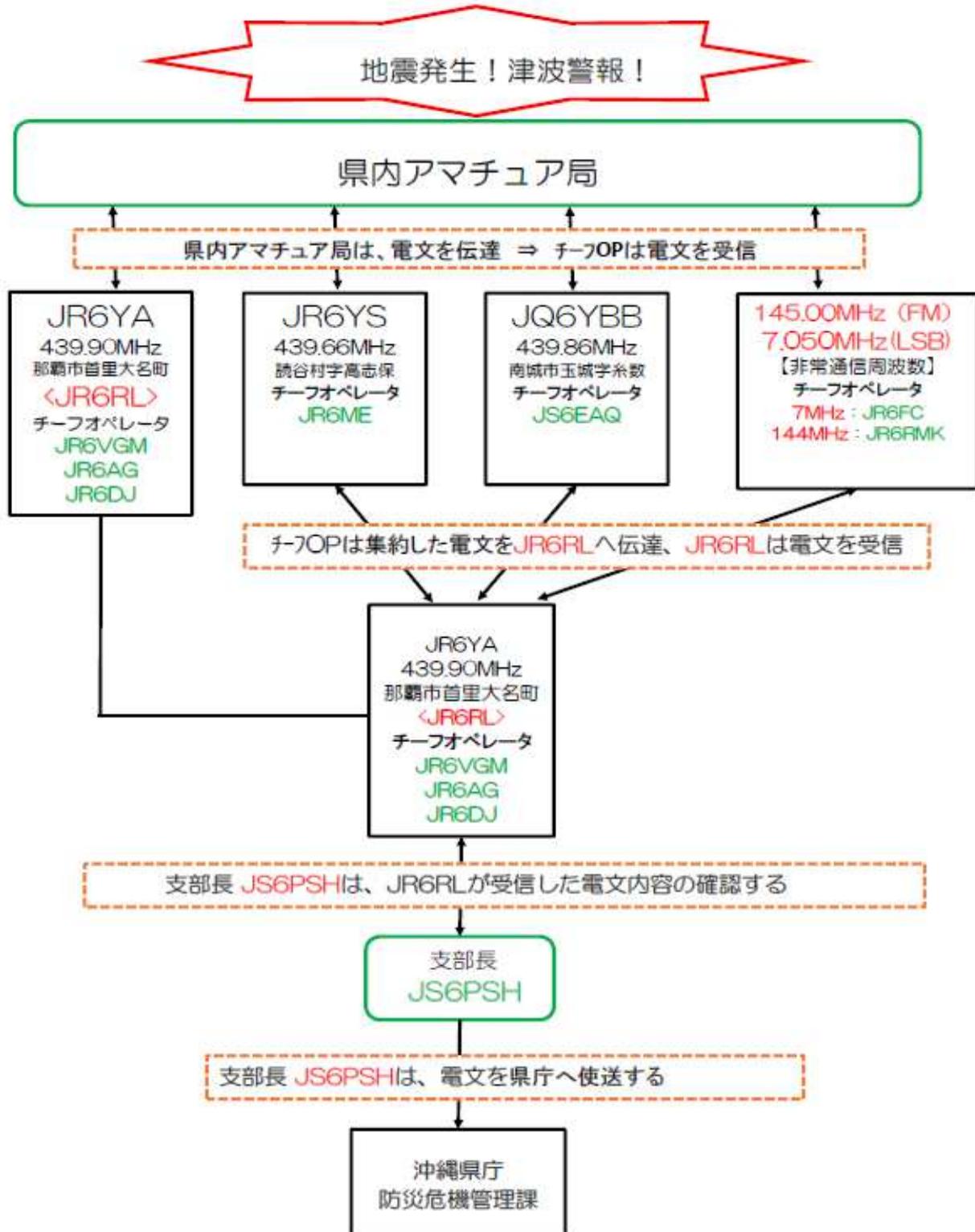
**震度6強の地震が発生。沖縄本島から先島諸島に津波警報が発表された。**

- (手順1) 地震発生を受け、県内アマチュア局は、430MHz 帯レピータおよび非常通信周波数に待機する「チーフオペレータ」へ現況を伝える「電文」を送出する。
- (手順2) 「チーフオペレータ」は、各レピータおよび非常通信周波数で取りまとめた「電文」を JR6YA (439.90MHz) 経由で、JR6RL (基地局) へ伝達する。
- (手順3) **支部長 JS6PSH は、JR6RL (基地局) が受信した「電文」を確認。**  
「非常通信用紙」にとりまとめ、沖縄県庁 (防災危機管理課) へ使送する。
- (手順4) 訓練終了

(表1) 使用するレピータおよび非常通信周波数

呼出符号	周波数	設置場所
JR6YA	439.90MHz	那覇市首里大名町
JR6YS	439.66MHz	読谷村字高志保
JQ6YBB	439.86MHz	南城市玉城系数
非常通信周波数	145.00MHz	-
非常通信周波数	<b>7.050MHz (LSB)</b>	-

### JARL沖縄県支部 第2回非常通信訓練 通信ルート



#### 4. 実施状況

(1) JR6YA (439.90MHz) 那覇市首里大名町

件数：アマチュア局 6局

受信地域：那覇市上之屋、首里久場川町

名護市辺野古、豊見城市名嘉地、島尻郡座間味村（座間味島高月山公園）

(2) JR6YS (439.66MHz) 読谷村字高志保

件数：アマチュア局 1局

受信地域：那覇市首里久場川町

(3) JQ6YBB (439.86MHz) 南城市玉城系数

件数：アマチュア局 11局

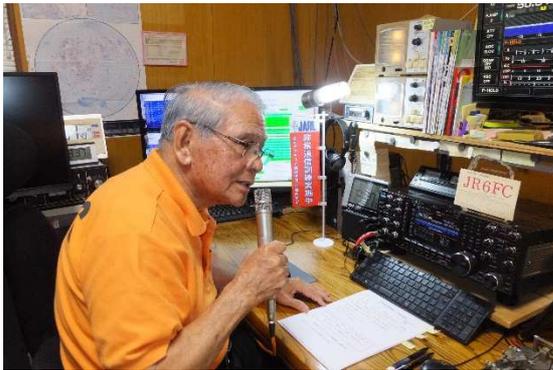
受信地域：那覇市首里久場川町、那覇市宇栄原

南城市佐敷、南城市玉城愛知、豊見城市豊見城、糸満市国吉

八重瀬町後原、うるま市、うるま市喜屋武、国頭郡金武町金武

(4) 7.050MHz (非常通信周波数)

7.050MHz (非常通信周波数) にて宮古島市、竹富町 (竹富島)、南大東村から送出された電文を糸満市にて音声受信。



JR6FC 大城 重一 副支部長 糸満市



JS6TWW 大東 雄二氏 南大東村



JR6YUA FM みやこアマチュア無線クラブ  
宮古島市



JS6LIH 上間 学氏 竹富町 (竹富島)

(5) 沖縄県庁（防災危機管理課）へ電文を送信 <8月25日（日）13:00>



(写真 左)沖縄県防災危機管理課 宮城 氏 (写真 右) JS6PSH 波平 元範 支部長

(6) まとめ

第2回非常通信訓練は、昨年の訓練に続き、430MHz 帯レピータを利用した訓練を実施した。昨年と比較して参加局数が減少したことから、訓練参加への周知の強化と実施時期等の検討が必要と感じた。

今回、初めての取り組みとして宮古島市、竹富町（竹富島）、南大東村のアマチュア局から7.050MHz（非常通信周波数）において、安定した電波伝搬の下、被害状況等を伝える電文を沖縄本島（糸満市）のアマチュア局が確実に電文を受信することができた。今後は、本島の周辺離島および先島諸島に在住するアマチュア局のネットワークづくりをしながら、万が一に備えたアマチュア無線による非常通信ルートを確保していきたいと考えます。

(9)

2024年(令和6年)8月27日 火曜日



非常通信訓練に参加したFMみやこアマチュア無線クラブの仲里会長(左から2人目)ら=25日、平良東仲宗根

県支部

宮古島は短波帯

アマチュア無線を利用

# 非常通信訓練で流れ確認

日本アマチュア無線連盟「手段として役割を果たすア  
沖縄県支部は25日、大規模「マチュア無線を利用した  
災害時における情報伝達の「非常通信訓練」を行った。

F Mみやこアマチュア無線クラブ(仲里雅彦会長)も参加し、短波帯の電波を使用した情報伝達の流れを確認した。

訓練は25日午前9時半ごろ、与那国島の近海で震度6強の地震が発生し、沖縄本島から先島諸島に津波警報が発表されたと想定して実施。宮古島と沖縄本島をつなぐ非常通信訓練は短波帯の電波を使った。

平良東仲宗根の同クラブ無線機室の訓練は、通信ルートに沿ってメンバーらが非常通信周波数に待機する「チーフオペレーター」へ無事など現況を伝える「電文」を送出。情報はチーフオペレーターから支部長に伝達し、電文内容を確認した支部長が電文を県庁防災危機管理課に送付した。

仲里会長は「大規模地震

で海底ケーブルが切れた場合に携帯電話が使えないなどとなった場合に短波帯を使った通信しかない。非常時に沖縄本島、県外と通じるのがアマチュア無線なので協力する。きょうの訓練は想定通りのができたので体制が整えられた」と話した。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くのアマチュア局が地方自治体に協力するなど被害情報の収集や安否情報の伝達など人命救助や災害救援のために非常通信が実施された。県支部は大地震が発生したことを想定する独自の「非常通信訓練」を行い、アマチュア局から寄せられた情報伝達の流れを確認することを目的に実施。訓練は2回目で宮古島からは初めての参加となった。

# アマチュア無線クラブ 災害想定し情報伝達確認

## JARRLの非常通信訓練参加

F Mみやこアマチュア無線クラブ(仲里雅彦会長)は25日、日本アマチュア無線連盟(JARRL)沖縄県支部(波平元範支部長)の非常通信訓練に参加した。会員5人がF Mみやこの建物内にある同クラブ無線機室から、大規模災害を想定した情報伝達手段を確認。すべての作業が良好に終了した。

訓練は、2011年3月11日に発生した東日本大震災では多くのアマチュア局が自治体などに協力し、被害情報の収集や安否情報の伝達など人命救助や災害救援のために非常通信を実施したことを踏まえ実施。県内で大地震が発生したことを想定した独自の非常通信



非常通信訓練を行う仲里会長(右)ら=25日、F Mみやこアマチュア無線クラブ無線機室

訓練を行い、県内アマチュア無線の流れを確認することを目的に、沖縄本島と宮古島、竹富島、南大東島の愛好者が参加した。

同日午前9時半ごろ、与那国島の近海で震度6強の地震が発生し、沖縄本島から先島諸島に津波警報が発令されたことを想定。県内アマチュア局の情報を取りまとめるチーフオペレーター(波平支部長)に、同クラブから通信して訓練文を読み上げた。

仲里会長は「今は携帯電話などが普及しているが、災害時は海底ケーブルの切断などで使用不能になる恐れがある。短波帯を使用するアマチュア無線は初期段階の情報伝達などに役立つ」などと説明した。

その上で、「趣味でやっていることだが、民間でできる範囲でやろうと参加した。今後は非常時にどんな連携ができるのか行政機関と話し合っていく必要がある」と語った。

宮古  
毎日新聞

# 竹富島から上間さん参加 アマチュア無線で通信訓練



訓練で沖縄本島と交信する上間さん＝25日、竹富島

一般社団法人日本アマチュア無線連盟沖縄県支部(波平元範支部長)は25日、大規模災害時の情報伝達を想定した非常通信訓練を行った。八重山

地域からは、竹富島に住む上間学さん(62)が自宅から参加。他のアマチュア無線家と交信し情報を伝達した。先島地域での同支部独自の訓練実

施は今回が初めて。アマチュア無線は世界中の愛好家がアナログで交信する技術。アンテナ、バッテリー、トランシーバーなどの機材があれば使用できる。持ち運びができる小型の機材を持つ人もおり、万が一、デジタル通信が不通になった場合でも使用可能。2011年の東日本大震災や1995年の阪神淡路大震災では、多くのアマチュア無線局が自治体に協力し、安全情報の収集、伝達に貢献した。

今回は上間さんだけでなく、糸満市や宮古島市、南大東村のアマチュア無線家も参加。7メガヘルツの非常通信周波数を使い、沖縄本島と交信し情報を伝達した。

終了後、上間さんは「地震があれば、情報伝達に協力、貢献できる。責任を感じる」と述べた。

